

畑作・野菜・花き生産情報 第7号（要約版）

令和7年10月20日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 大豆は、適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎ 小麦は、排水対策と雪腐病防除を徹底しよう！
- ◎ ながいもは、適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎ 秋ギクは、病害虫の防除を徹底し、親株は適切な温度管理をしよう！

○ 大 豆

- ・成熟期に達しており、収穫作業が始まっている。また、倒伏しているほ場が散見される。
- ・コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下、子実水分20%以下となった時期である。収穫が遅れると紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に刈取る。
- ・倒伏したほ場は別刈りを行い、品質向上に努める。

○ 小 麦

- ・は種後の生育は、おおむね順調である。
- ・湿害や雪腐病を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。
- ・雪腐病の防除のため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

○ ながいも

- ・いもの生育は、一部の地点を除き、いも長、いも重、いも径いずれも平年を上回っており、順調である。
- ・収穫は、11月上旬以降、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。
- ・雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- ・茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

○ 秋冬だいこん

- ・出芽以降の生育は順調で、生育期間の平均気温が平年より高く推移したことから、平年より5日早く収穫期を迎え、収量は平年をかなり上回った。
- ・収穫は、ほ場ごとに試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

○ 秋ギク

- ・生育は順調で、病虫害は、アブラムシ類やヤガ類が見られる。
- ・白さび病や灰色かび病の予防を定期的に行うとともに、アザミウマ類等の害虫の防除を徹底する。
- ・2～3分咲きを目安に、涼しい時間帯に採花する。
- ・親株には、病虫害の被害の無い健全なものを用いる。
- ・親株の伏せ込みは、10月下旬までに行う。

○ 施設における冬期間の留意点

- ・降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- ・ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど省エネ対策に努める。

※農なび青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!! (5月1日～11月30日)

◎秋の農作業安全運動展開中です。(9月1日～10月31日)

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし! 農業保険を活用しましょう!

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 八島敏行 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076
報道監	農林水産部 次長 栗林豊 内線 4967